

# 図書彼だより

題字 島根県教育委員会教育長

号数 第14号  
発行日 昭和46年8月1日  
編集行 島根県立図書館  
松江市内中原町52  
TEL (0852) 22-5725  
印刷 ㈲高浜印刷所



あゆみ会読書風景

## 読書と私

何かこうしてはいられない、胸の中にフッフッと煮えたぎるものを感じる。

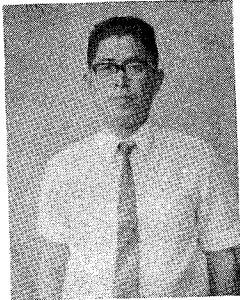
私の所は旅館業を営んでいる、嫁して13年毎日煩雜な仕事に追いまくられている中で、読書は私の心の寄りどころであると共に、オアシスでもある。対人関係のむづかしさ、仕事上の行きづまりを感じた時、むさぼる様に本を読む、恰もこの本が方向を裏付けてくれるがごとくに。読書はより多くの情感を育てる、嬉しい時に喜び、悲しい時は一緒に泣ける微妙にゆれ動く感情、そして何よりも女性として美しくありたいと思う。目は細く、鼻は低くとも内より滲み出る魅力が欲しいと切に願う。

子供も一応手が離れ！ハテ自分の人生は！と考えた時一人でブツブツかたつむりの様に泡をふいているよりも、同地区の年令環境の同じ人達に読書会を呼びかけてみたらどうだろうかと思いついた。以外にスーと皆が飛びついて来て下さった。“ああそうなのか、皆も私と同じ取り残されそうな焦りと飢えを持っているのだな”と胸のつまる思いがした。会員10人のささやかな会ではあるけれど、“あゆみ会”と命名した。あゆみはカメの様に、のろいけれど読書を軸に細く長く遠い丘の上の旗を目ざして歩いて行こうと思う。

同じ本を読んでも一人一人その受け止め方が違う生き立ち、生きる姿勢により、感想も色とりどりでとても面白い。堀り下げて話し合えば思わぬ収穫が得られる。次はどの本を読んで話し合おうか、どんな反応があるだろうか、夢ははてしなく広がる。私はとても幸せである。

八束郡玉造温泉 内藤絹子

# ＝子どもに先ず一冊の本を＝



『母と子の20分間読書運動』を提唱された椋鳩十先生の最近の隨筆集中に「心に金の鈴を」という短篇がある。

『その冒頭に近頃の日本は少年期から青年期にかけて、試験・試験・試験である。こんな調子でいくと日本国土の隅々まで、法律の条文みたいな味も、そっけもない人間どもが、のっしのっしと肩を張つて歩きまわるようになりはしないかと心配である。』――という意味のことが書いてある。

- ・人間に匂いのようなものをあたえるもの。
- ・夕焼けの空のような美しさをあたえるもの。
- ・人間のことばや行動に厚みをあたえるもの、幅とやわらかみをあたえるもの――。
- ・人間に勇気をあたえ、はるかなる理想をまねきよせんとする原動力となる感動――。

いくら知識が大切であるからといって、その知識を生かす原動力となる、このような情緒やもの思う心や感動を失っては、エンジンを失った船の舵のようなものである。一とし、幼い日の子どもの心にエンジンとしての心を植えこみたいものだと記されている。

それには、なんといっても、母親の語り聞かせる物語である。美しくすぐれた物語をおかあさまの口から、じかに子どもに話してやってもらうことからはじめたいとも記されている。

そして、『心のしわの中に、たび重なって深く深く刻みこまれた、もの思う心や、感激や母の声や匂いや、もろもろの情緒は、一生を通じて金の鈴のようにさわやかに鳴りつづけることであろう。』と、結んでおられる。

考えてみると、好むと好まざると拘わらず、子どもの周囲には、子ども向け公害が氾濫して、刻まれてはたまらないしわが、心の中に幾重にも重層的なひだを作つて悲しい。

しかし、私は、毎年のように児童の読書感想文を読ませてもらう機会に恵まれて、いつも同じ思いをするのだが、一面、広く、豊かな、心の美しい子ども達もまた、大きく沢山育っているということに出合つて、限りない愉悦をも覚えホッと安堵もするのである。

確かに本好きな子は、物の見方、考え方方に巾があ

島根県学校図書館協議会

会長(市立川津小学校長) 花 谷 静 夫

り厚みがあり、ふくよかで柔かい。本好きな子にするために、学校が果す役割は大きいが、私の経験からいって、本好きな子どもの家庭には、子どもを本好きにしている要素が一様にあるような気がしてならない。

子どもをとりまく公害の中に放任されている子が持っている家庭には、物語がない。子どもへの物語を失った母、寝物語もできなくなっている家があるような気がしてならない。

本に親しむ子とそうでない子とに大きい断層がある。枯れかけた乾き切った味のなあ家庭には「本」がないのではなかろうか。アクセサリーとしての事典や全集が、美しく揃っていても、子どもの心の中に本がないとすると困ったことである。

見栄や体裁のツンドク書架でなく、子どもに生きて働くような本が揃う家――子どもの成長とともに一冊一冊が、ゆっくりと、絶えることなく増えしていく家――私は、本好きな子どもの家にある雰囲気を、そのような姿にみてとり、どの家も、本の持つはたらきに着目して、そんな本が揃っていくような「家庭図書室造成運動」を夢みたい気がする。

手をしゃぶりながらみた幼い日の絵本、やっと字の一つ二つ捨て読みできる頃、何回となくせがみ読みをし、そらんじるまで読みかえした手垢のついた一冊の本。誕生日のプレゼントに買ってもらった部厚い童話。お年玉をためてはじめた自分で買った一冊の物語本。どうしても欲しくてねだった図鑑。おこづかいを節約して買うようにすすめられ努力して手にした何冊かの物語や小説。

幼い日、おふろの中で、口うつしにお話が聞ける家。対話があり、子どもをだいじに考えているあたたかい家には、何か、そんな印象に残る本が揃つていくような気がしてならないのである。

意味のある、印象に残る、思い出のよみがえる一冊、一冊の本を揃えることを楽しむ子どもを作りたい。子どもの心の成長記録として、宝として積んでやりたい。そんな本が揃う「家庭図書室」を――。

夢であろうか。

『金の鈴』は、積み重ねの上にしか鳴ってくれないのでなかろうか。さわやかな鈴の音が子どもの心奥に定着するために、先ず一冊の本を持たすことからはじめたい。一生を左右するような一冊の感動の本に出会うことだってなくはないと思うからである

# あすなろグループ誕生

## 私たちの読書会グループ

昨秋、本に親しむ婦人教室に参加致しまして、読書会課題図書を読み、その傍ら巡回文庫の貸出しを受け、一時に渴をいやすかのように読書に夢中となりました。

教室も半ば過ぎた頃、ふと、この楽しみをご近所の方々にもと思いつたち話しましたところ、ぜひとも、と御希望があり、1月からグループ分の貸出しをしていただき、同じ本を読み話し合うよろこびを味うことになりました。

文学少女だったのよ、でも自分のものを買ってまで読めないのでうれしい。1ヶ月の期間が忙しい私にもゆっくりと読むことができて助かります。私の読書を子どもがとてもよろこび子供も本が好きになりました。などの声も出して、まだ半年余りの活動ですがお互に学び合っております。

やっと子供に手がかかるなくなり、自分の時間が持てるようになったとはいえ、日常生活に多忙な主婦であるがため、学びたい、心の糧を求めたい、と各自では考え乍ら、実際には中々にむつかしいことでした。けれどグループ活動として、誰かがお世話をすれば、お世話をしあえれば互に励みとなり、読書の時間を生み出すことも出来ます。

現在のところ、巡回文庫を利用させていただき、何らむつかしい規約もなく、唯々本が好き、読書がしたい主婦の集りであり、江津本町読書会を名のるには、まだまだ考え、学び、行動えと学習すべきことの多いグループではありますが、あすにはならうと頑張っております。

江津市 尾崎 修子

## レファレンスコーナー

### レファレンス（調査・相談）案内

一般に分からぬことがある場合、ちょっとどこかに聞きたいなあと思っても、簡単に気持よく調べて、答えてくれる所は案外少ないようです。市役所だって、会社だって、大学や研究所ですら気軽に相談に応じてくれないようです。しかし、どこか県や市町村の中で、ちょっと質問してみると所があつてよいはずですね。公共図書館は、そういう疑問や質問を受けて答えてくれますし、また資料を用意するのも仕事の一つとしてサービスしています。このことは案外市民の皆さんには知られていないようですが、考えてみると非常に便利な所ではありませんか。

当館にはレファレンス室といって調査研究に役立つ辞典・年鑑・ハンドブックなどが置いてある部屋があり、そこの係員がそれらの資料を駆使して質問に迅速に応じるよう努力しております。質問には、直接来館されてもよろしいが、電話や文書で質問されるのが便利でしょう。図書館の仕事はすべて無料ですから、十分にご利用ください。

今までの質問の例では、

●〇〇〇〇という人の業績が知りたい

- 〇〇〇という地名はどこにありますか
- 昭和〇年の米の価格はいくらか
- などの簡単なものから、
- 再販制度について知りたい
- イタイイタイ病の訴訟の経過が詳しく知りたい

など、かなり高度な質問もまいります。簡単な質問には当館の資料で即座に解答できますが、非常に詳しいのになると他の図書館や関係機関に照会しなければならないこともあります。幸い国立国会図書館という大きな図書館がありますので、そこで大方の問題は解決できます。したがって当館や近くの公共図書館を通して国会図書館に質問なさってよろしいし、直接国会図書館に質問されてもよいでしょう。

このように少しでも皆さんの役に立つよう努力しておりますので、どうぞレファレンス室をご利用ください。

住所は「松江市中原町52番地」

電話は「松江・22局5739」です。

(担当) 司書 豊田 邦雄

# 公立図書館の広場

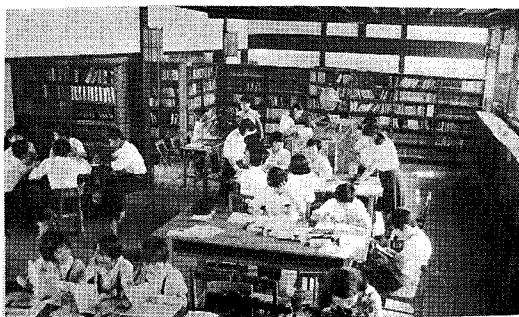
## 津和野町立図書館

### 沿革

津和野町図書館は有志の発起により大字森村に設立されたもので、当館の一番古い図書台帳には明治35年3月31日から記帳されているので、これ以前に設立されたものであろう。鹿足郡治一覧、及び県統計書には明治37年度から私立津和野図書館として掲載されている。それによると蔵書が和漢書2294冊、洋書30冊、経費66円となっている。2年後の明治39年の県統計によると、和漢書5772冊、洋書42冊に増加している。尚その統計によると当時県内には、松江図書館、浜田図書館、簸川郡教育会図書館、美濃郡教育会図書館と、私立津和野図書館の5館が在ったことがわかる。

余談であるが、古い台帳を見ると殆んどが寄贈による図書で、寄贈者の中には、亀井家、多胡家、福羽美静、中村吉蔵などの先哲の名前が見えている。購入図書は最低が15銭、最高5円で、25銭、30銭のものが一番多い。台帳の用紙は勿論和紙で美濃版のもので、筆でていねいに書いてある。1枚を1頁として63頁におよんでいるが、当時頁のことを丁と言ったものであろう。1丁から63丁まで記入されている。尚当時の図書分類は次の通りになっているので参考までに記しておく。

国文学・漢文学・外国文学・字典・外国语・教育・宗教・哲学・倫理・論理・社会学・政治・法律・経済・歴史・地理・理科・数学・農業・商業・工業・兵事・医学・衛生・伝記・家庭・遊戯・小説・雑書・絵画・体操・小学校教科書・簿記・講義録、となっている。



ところで、私立津和野図書館も大正7年頃より経営者を失い一時名のみとなったので、望月町長提唱のもとに大正9年8月17日の町会で郷土館と共に町立にすることを決定した。そこで、津和野小学校初

代校長であった、青直樹等11名の図書館協議員によって検討され、大正9年11月13日町立津和野町立図書館として発足した。

大正12年には文部省より奨励金の交付を受け、昭和5年2月11日には文部省より優良図書館として表彰された。

町立になった頃より養老館内に移り今日に至っている。



### 特色と運営

取り立てて述べる程の特色もないが、前述の通り県内でも一番古い歴史を持っているのは一つの特色であろう。図書館の前を流れる水路には、鯉がゆうゆうと泳ぎまわっている。こうした静かな落ちついだ環境も又特色かと思う。又現在は公民館と同じ建物の中に在るというだけでなく館長以下3名の職員全員が公民館と兼務であるのも特色であろうか。

公民館活動との調和をとつて町民に親しまれる図書館をモットーとして運営にあたっているが、公民館と両方では職員が不足なので、十分な活動が出来ないのを残念に思っている。図書購入費は年額25万円程度。3年前からライオンズクラブより、三万円宛寄附を貰って児童図書の購入をしている。又3年前から土曜、日曜の開館も実施している。憲法を学ぶ会、読書会を毎月一回実施している。

### 今後の課題

現在公民館と共に、修復された養老館の建物の中に仮りの住いであるので公民館と共に、近代的な図書館の建築が大きな課題の一つである。

近い将来中学校が移転改築されるのでその跡へ新築するという基本方針は決定しているが実現までには今しばらく日時を要すと思う。

## 新刊紹介

### —図書館資料紹介—

(一) 「名画を見る眼」 高階秀爾著 岩波書店  
絵というものは別に理屈をつけなくても、ただ漫然と眺めて樂しければそれでよいのだという見方がある。しかし先輩の導きや、専門家による研究に教えられ、「眼」をやしなうことにより、それまで見えなかつたものが、はっきり見えてきたり、その絵が描かれるにいたつた作者の精神的背景を想像することは、もっと楽しいことではないだろうか。本書は正・続2冊で29点の西欧絵画が選ばれているが、個々の解説のみならず鑑賞するのに難解といわれる抽象絵画も不意に生れてきたのではないという歴史的解明もなされている。

(二) 「フィッシュ・オン」 開高 健著 朝日新聞社  
アラスカでのキングサーモンに対する手厚い保護ぶりや、極寒のツンドラ地帯で川がどんなに大切にされているかを読んで、現代では既に人が保護の手を差し伸べなくてもよい自然などというものは、ありえないかもしれないと思う。とすれば、今、私達の食卓にのぼる高価な魚の代金はやむをえないのだろうか。日本の釣り人口、1千万といわれるが、やらずぶつくり式に自然を破壊して、魚をさらっていく日本。今に本当の意味での釣りの醍醐味を味わうためには、アラスカまで出向かなければならぬのか、と著者は憂いでいる。

(三) 「おやじとむすこ」 中川正文著 文芸春秋社  
児童文学学者として著名な作者が、2人の息子の成長過程を、ほほえましく、ユーモアを交えて描いている。本書は、福音館書店の「母の友」に断続的に6年間にわたって連載されたものをまとめたものであり、従って本書から児童感や、家族関係論、教育の本質をくみ取ろうと思うのは無理かもしれない。しかし著者も書いているが虚実とりませた単なる日常的読み物として気楽に読める反面、親子の断絶が叫ばれている現在、一庶民の家庭の姿を知る面白い作品であろう。

司書 深田百合子

(一) 「墨画入門」 遠藤教三著 造形社 1,000円

副題に「鑑賞と技法」とあるように、東洋画特有の世界を、中国・日本の古代から現代に至るまで、時の流れを紹介し、時の流れとともに変遷する画風を鑑賞していく内に、自分でも筆をとってみようと思われる方々へ推薦したい初步的な独習書です。

墨には五彩ありと言われます。この五彩に加えて、空白の白は、黒以上に見る人の心に、自由な絵を想像させることでしょう。

前半は、画家ならびに、その流派を紹介し、後半は、墨の話、絵の具、画題の選び方と、親切な手引き書としても有意義でしょう。

(二) 「悲の器」 高橋和巳著 河出書房新社

650円

高橋和巳作品集 全9巻の内 第2巻に収録されております。

法に従事する主人公が、最後には、法により自からが裁かれると言う皮肉な物語です。そこには、人生の皮肉さ、辛さがあり、常に、私達に、人間とは何かを問うている幅広い小説です。主人公の大学教授には、学問の厳しさがある。それ故に自分の説を貫こうとすれば衝突が起る。その裏には各人の育てた人生観・信念がある。妥協を許さぬ学問の道、それは自由と言われるかも知れないが、これほど厳しいものはないでしょう。男の世界には必ずしも数人のひたむきな女性の姿があるのも、見のがせないことでしょう。

(三) 「サクラと沈黙」 オフチンニコフ著

徳間書店 580円

ソ連のプラウダ紙の論説委員である著者のジャーナリストの眼で見た日本觀です。外国人の印象記には、日本批評をしている点が多い反面、そこには著者のお国柄が表われて、興味深いものとなっております。ルポルタージュとしてだけでなく、文学的エッセーとしても価値の高いものでしょう。

司書 来島 弥生

## 図書館司書のメモ

### 自動車文庫 「しまね号」 に乗って

現在、島根県立図書館は、松江市に松江市立図書館がないため、市立の機能も兼ねている。交通機関が発達しているとはいえ、東西に細長い島根県の一箇所に長く居れば、井の中の蛙になり易い。従って、県立でありながら、その自覚から、ふと遠のくことがある。

このような時、自動車文庫「しまね号」に乗って、県内各地を巡ることは、改めて県立図書館が背負っている責任を感じるのである。

その目的のために造られた一台の自動車に全分類から選ばれた、2千数百冊の本を積み、遠方では、3泊～4泊のコースとなる。島根県の地図を思い起こすのは、このような時である。県庁所在地・松江に位置しているけれども、島根県西部、石見地方とは、地理的、感覚的に遠いという気がするのだ。

しかし待っていたようにして迎えられると、うれしさもひとしおである。自動車文庫に来る人は、さまざまである。時間的に昼間が多いせいか、女性が多い。姉さんかぶりをして来る農家のおばさん。エプロン姿で子供の手を引きながら入ってくる母親。役場の休憩時間に来たと思われる娘さんなど。その配本所によって特色がみられるのは面白い。

そして県下8コース、57配本所ともなれば、自ずと違いも出てきて当然であろう。単に本を読むだけではなく、グループとして読書会を作っているところもある。一冊の本を読んで、お互い自分なりの感想を述べあう。自分の考えつかなかつたことを、他の人から聞かされ、驚くこともある。又、全く興味のなかつた本に関心が湧いてくることもあるだろう。お互いの卒直な意見を出し合い、リーダーをもりたてて始めて、読書会は成り立つのではないだろうか。本当に立派なリーダーの下には、陰の力が潜んでいるはずである。

「しまね号」に乗ってみると、限られた本を最も有意義に活用している。このような読書会が、どんどん誕生していってほしいと思う。

司書補 大江孝子



### — 4月1日から5月末日まで —

- 4月1日 全国地方自治体広報展（4月中展示）  
橋北理容青年学級生20名来館学習
- 10日 文化映画を見る会、ステレオコンサート
- 12日 松江市古志婦人会46名見学
- 15日 千葉商科大学原田理事長外1名  
松江市竹矢婦人学級生29名来館見学
- 16日 郷土文学に親しむ会〔於集会室17.00～19.00時 60名〕
- 17日 古文書を読む会
- 19日 図書館婦人教室
- 20日 春季ばく書（29日まで休館）
- 24日 古文書を読む会入門講座
- 26日 松江市理容青年学級生30名視聴覚学習  
高知県立図書館長来館視察  
(4月中閲覧者総数 6,006人)
- 5月1日 少年俱楽部復刻展（5月中展示）  
古文書を読む会入門講座
- 6日 自動車文庫巡回（平田・大社コース）  
〔以下B.M.〕
- 7日 B.M.（島根半島コース）
- 8日 文化映画を見る会、ステレオコンサート  
こども大会（子ども読書週間行事）  
——於八束町40名
- B.M.（八束コース）
- 10日 出雲市高浜小学校4年生30名見学  
映写機登録検査（集会室14日まで）  
B.M.（伯太コース）
- 11日 大東町海潮小学校4年生50名、頓原町頓原小学校4年生35名来館見学
- 12日 松江市幼稚園教育研究会教諭20名見学学習  
B.M.（那賀コース2泊3日）
- 15日 古文書を読む会  
松江南高校P.T.A母姉部15名見学学習
- 16日 こども大会〔集会室ほか 170名〕
- 17日 B.M.（美濃コース4泊5日）  
映写機登録検査（出雲市・平田市・大田市20日まで）
- 19日 図書館婦人教室
- 21日 郷土文学に親しむ会
- 23日 母と子を結ぶ幼児教育の集い
- 24日 映写機登録検査（川本町・浜田市・益田市27日まで）
- 25日 B.M.（横田・仁多コース3泊4日）
- 29日 図書館友の会〔足立美術館と文化財を尋ねる会〕中仙寺古墳ほか
- 31日 映写機登録検査（隠岐島7月2日まで）  
(5月中閲覧者総数 10,083人)

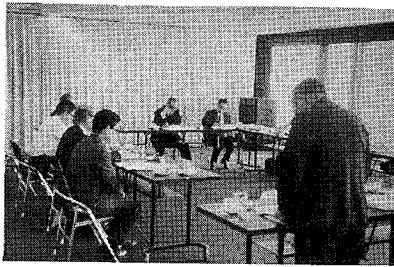
# ス ユ 二 図 書 館

## 図書館協議会新委員きまる

図書館法に基づき、昭和44年県条例第12号により、図書館運営に關し館長の諮問機関として島根県立図書館協議会が設置され、昨年は「読書振興策はいかにあるべきか」について諮問をうけ本年3月末答申（図書館だより第13号でその概答を紹介。）がなされたが引き続き下記10名の方が委員として任命され、第1回の協議会が7月県立図書館において開催された。

記

- (1) 委員定数  
10名
- (2) 任期  
2年  
(S. 46.4.8~  
S 48.6.7)
- (3) 定例会  
年5回
- (4) 協議会委員名



- (1) 委員名（任期 S 46.6.8日～48.6.7日）

種別	氏名	役職名	摘要
学校	花谷 静夫	松江市立川津小学校長	新
社会教育関係団体	福庭ミチエ	県連合婦人会常任理事	再
社会教育委員	漢東種一郎	著述業	副議長、再
公民館運営審議会の委員	松尾 巍	松江市生馬公民館長	新
学識経験者	奥原 秀夫	県議会議員	議長、再
"	森山平八郎	出雲市立図書館長	再
"	和田 芳市	浜田市教委教育長	副議長、再
"	鳥居 大二	邑智郡石見町長	再
"	田部 智久	島根放送株式会社社長	再
"	小原 幹雄	島根大学教授	新

## 県立図書館行事予定(8~9月)

月	項目	行事、事業名	場所	内容・対象	備考
8	上	映写機操作認定講習	隠岐島	一般	レリーフ巧芸画展
		郷土の歴史講座(4日間)	当館及び浜田図書館	〃	
		故書を読む会入門講座	当館	〃	
	中	自動車文庫巡回	邑智コース	読書会等	
		文化映画とコンサート	当館	一般	
		映写機操作認定講習	石見町	〃	
9	下	映写機操作認定講習	大田市	〃	出雲風土記展
		故書を読む会(1、2部)	当館	〃	
		図書館婦人教室	〃	婦人	
	上	映写機操作認定講習	東出雲町	一般	
		自動車文庫巡回	美濃コース	読書会等	
		故書を読む会入門講座	当館	一般	
	中	文化映画とコンサート	〃	〃	
		郷土文学に親しむ会	〃	〃	
	下	図書館婦人教室	〃	婦人	

# 新着資料の紹介

## 1. 図書資料

- 総 記  
デスクmemo
- 哲 学  
人間として女性として  
長たる心  
愛に始まる
- 歴 史  
美女と皇帝の国—エチオピア  
叛逆への情熱  
世界史  
人間をとらえる  
西洋史潮
- 社会科学  
人間みな兄弟—図説部落問題—  
税務署への告発状  
コンピュータの共同利用  
民族歳時記
- 自然科学  
病は心から  
湯川秀樹自選集1~5  
擬態—自然もうそをつく—  
魚の博物学  
情報処理システムを学ぶ人のために 三重野博司
- 工 学  
素晴しきヒコーキ野郎  
日本公害地図  
公害原稿1・2  
しょうゆの本
- 産 業

## 2. 視聴覚資料

家庭教育シリーズ第12集（マスコミと家庭教育）

番号	題 名	内 容	形 式	出 演 者
1093	マスコミと現代社会	マスコミとは何か、構成要素・種類・社会に及ぼす影響を考える。	インタビュー	東京学芸大学助教授 麻生誠 山口真
1094	マスコミとわたくしたちの生活	マスコミに取り囲まれた生活の実態を母と子（中学生）の意見をきき考える。	録音・はなし	文部省社会教育局社会教育監 新堀 通也
1095	育児情報源としてのマスコミ	母親が家庭教育について最も影響を受けている育児情報源は何か。	"	国立音楽大学講師 高橋恵子
1096	テレビっ子	子どもがテレビの影響をどのように受けているのか。又、テレビ活用方法。	"	東京教育大学講師 辻 功
1097	マンガとこども	こどもはマンガ好き、おとなはこれを心配するが、マンガ文化を思考する。	"	東京工業大学教授 坂 元 昇
1098	マスコミ公害	公害ともいえるマスコミによる弊害や影響を検討し対処のしかたを考える。	"	横浜国立大学助教授 依田 明
1099	マスコミと子どもの性格	子どもの性格形成に与えるマスコミの影響と親の配慮のあり方。	インタビュー	学習院大学教授 詫摩 武俊
1100	読書とこども	地方都市での親子読書活動を参考にし、活字文化の役割を考える。	録音・はなし	国際教育研究所第3研究部第4研究室長 永野 重史
1101	マスコミと子どもの選択眼	はんらんするマスコミの中で必要なものを選択し受けとる能力を育てることを考える。	インタビュー	波多野 誠余夫
1102	マスコミと家庭	家庭内でのマスコミの受けとめ方、情報化社会における親の態度を考える。	"	島田 一夫

不良商品を斬る  
日本の資源問題

日本消費者連盟  
世界経済研究協会

### ○芸 術

フィッシュ・オン  
音楽の源泉

開高 健  
ザックス

### ○語 学

説得力あるコミュニケーション ベッティングハウス  
英文を書くための辞書 F・ダニエルズ  
入門英会話テープ・テキスト 旺文社編

### ○文 学

おやじとむすこ 中川 正文  
日野富子 平岩 弓枝  
戦争を知らない子供たち 北山 修  
詩の言葉・詩の時代 三木 卓  
サクラと沈黙 オフチンニコフ  
オスカー・ワイルドの生涯 平井 博

### ○郷土資料

出雲路旅情 文・石塚尊俊 写真・植田正治  
出雲隠岐の民具 石塚尊俊編  
三隅町誌 三隅町教育委員会  
不昧公遺墨集 島根県美術協会

### ○レファレンス室

世界人口年鑑 国際連合統計局編  
江戸語事典 三好 一光  
全国寺院名鑑 全4鑑 全日本仏教会  
科学技術人名事典 アシモフ

### ○小中学生室

川っ子サムの冒險 ノース  
しお ゴールディン  
君も宇宙飛行士になれる 福島 正美  
はち 得田 之久